

子供の発達と事故の関係について

生まれてから生後3～4カ月までは、一人では身動きもできず、寝返りもできません。この時期は吐いた物や窒息に注意が必要です。

生後4～7カ月は寝返りをし、体をある程度動かすことができるようになります。また、手が使えるようになり、口にもものを持っていくことができるようになります。この時期は誤飲や転落に注意が必要です。

生後7カ月～1歳頃になると、ハイハイ、捕まり立ち、伝い歩きができるようになります。行動範囲も増して自分の周りにあるものに興味を持ち始めます。また、うまく歩けないため転倒し階段や椅子などから転倒することが多くなります。子供は体に対して頭の比率が大きいため頭部打撲が増加します。また、熱傷や溺水にも注意が必要です。

1～2歳になると歩きまわることを覚え、行動範囲も広がります。自我も芽生えて自分で何でもしたがります。階段から落ちたり、高いところから転落する、化粧品や硬貨などを誤飲したりします。

自分の子供が1歳のころの話ですが、タワーマンションに住んでいたころ、子供が2階の踊り場の柵をすり抜け1階に転落してしまっていました。高さが6mくらいありましたので、頭から落ちれば死んでいてもおかしくありません。運のいいことに1階に椅子が置いてあり、その上をバウンドして地面に落ちました。幸い骨盤骨折のみで命は助かりました。このときばかりは、親としても気が気ではありませんでした。また、家族で品川水族館や東京ディズニーランドに遊びに行った時、目を離したすきにいなかったことがあり、大変慌てたことがありました。一瞬、「誘拐」の2文字が浮かびましたが、案の定保護室にいました。さらに、自宅においてあった自分の薬を数錠誤飲したことがありました。全身状態は問題なかったのですが、肝臓の数値が少し上がっていました。

子供に事故はつきものです。軽い怪我ならいいのですが、死亡や後遺症といった取り返しのつかないものもあり注意が必要です。周りにいる人がいくら気を付けても100%事故を防ぐことはできません。子供の発達を理解し年齢による特徴を知ることによって事故防止に役立てることができます。